

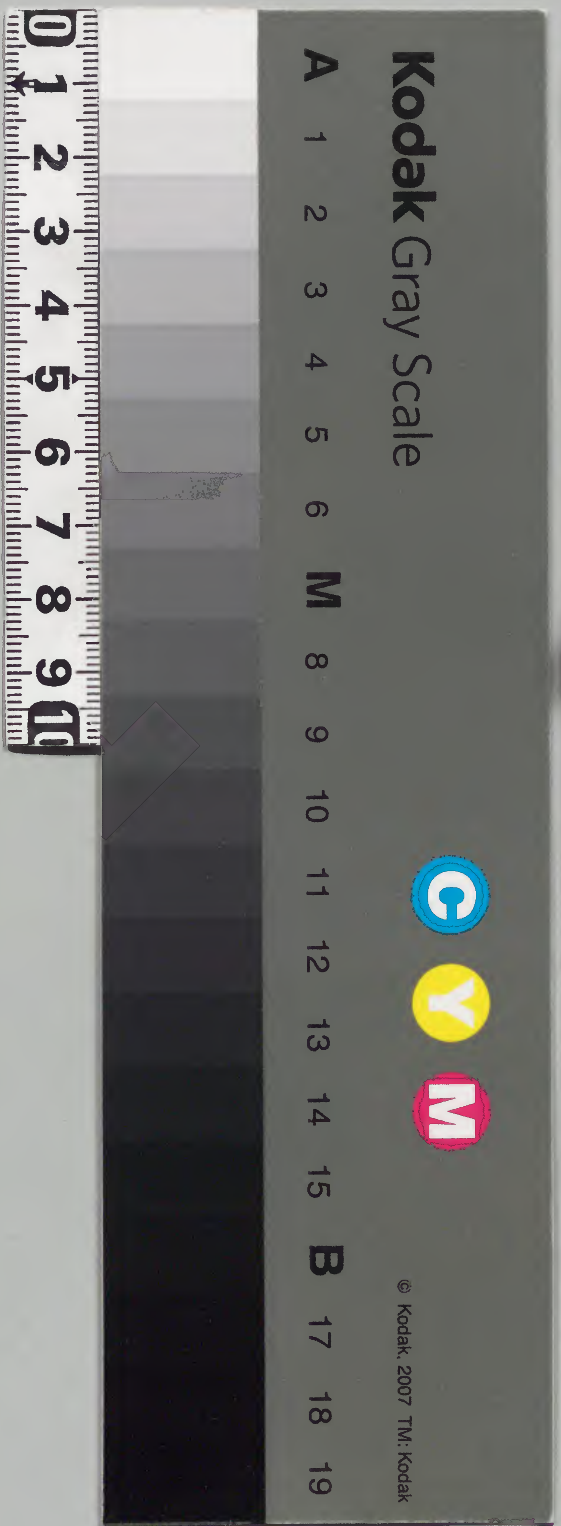
日本書紀傳 廿九卷_四

和書
一〇五二二號

九十六

内閣文庫	
番號	和 10522
冊數	156 (105)
函號	特 85 1

内一六六八三號



教
文庫部
印

南
政
官
印

南
政
官
印

南
政
官
印

と事代主神とを二神と立て合せて五柱と云ふ者
ありけり天下四方国人夫令威蒙恩頼此之縁也と云
ハ此大国主神の御子等一百八十一神御在坐す中
より珍子五柱を擢出させ給ひ其珍子を以て令率給
ひ廣く天下四方国の人民に恩頼を敷布し御在
坐す由あり右に引る古事記に亦僕子等百八十神
者即八重事代主神為神之御尾前而仕奉者違神者非
也と申給へる御言小合せて考ふ可き者ナリ右ハ
秘書教本を見合せて引くハ何れも以五柱為珍子
而之有り然るハ平田史第百三段に以十五柱為珍子
而之文を成し其後引るハ然作らり私ハ改たり
者ありて甚く安ふ事あるを誰しも元書に因て正

○日本書紀傳二十九

○卷三十三

一辯ふる人無きあむ甚て速無き事ありけり凡て古
書の誤ハ惟ふる證を得て論ひ定む可し然れども私
の文を改めて後人を誤る事ハ有る事あり
以テ五柱の尔字ハ其の訓て甚能く聞ゆるをや
リノ オホ アナ ムチノミト スクナビコ ナノ ミトノアハセキ

夫大已貴命與少彥名命戮

力一心經營天下復為顯見

蒼生及畜産則定其療病之

方又為攘鳥獸昆虫之災異

則定其禁厭之法是以百姓

至今咸蒙恩賴嘗大已貴命

謂少彥名命曰吾等所造之

國豈謂善成之乎少彥名命

對曰或有所成或有所不成是

談也蓋有幽深之致焉其後

少彦名命行至熊野之御碕

遂適於常世鄉矣亦曰至淡

島而緣粟莖者則彈渡而至

常世鄉矣

此ハ右小大國主神の亦名共を奉げ又其御子等ヲ教
多小御在ー坐す御事を奉りたる其文勢ハ棄て直
の国土經營の御事を引接け載るゝ所ある(故)
其少彦名神の出来くせ御在ー坐ける御事を申す小
違非りしが故ハ其御事ハ下へ廻りて此ハ夫大己
貴命與少彦名命云々と書出りたる者あり備
其国土經營の御事ハ一也此正書ハ謂ゆる素戔嗚大
神の出雲之清地今建させ御在ー坐ける其宮を吾見
宮之讓り聞えさせ御在ー坐けるを以て此ハ始給ふ
御事ハむ著明かりけるを古事記ハ其運る玉珠小

委レ有レ己ノ傳サ四三十九又此卷首大國主神の下
引テ注セルガ如ク此大國主神始兄弟八十神御在
坐テ各相競ハせ御在一坐一國作ル御事ハ何
也行ハせ給ヒ難ウ程ハ八十神の災ハ遇セ御在
坐レけれバ其御祖命の御趣ケおテ御父大神の御許
出シ遣奉給ヘ給ヘ御試共御在一坐
けル悉ク得堪させ御在一坐テ大神の御心ハ愛レ
く所思一成レさせ御在一坐ケる間ハ人間を得テ
其后神ト共ニ逃歸せ御在一坐ケるを追至り御在
坐テ略上遙望呼謂大穴牟遲神曰其汝所持之生大刀

生子矣以而汝庶兄弟者追伏坂之御尾亦追探河之瀬
而意礼為大國主神亦為宇都志國玉神而其戎之女須
世理昆賣為嫡妻而於宇迦能山之山本於底津石根宮
柱布刀斯理於高天原冰椽多迦斯理而居是奴也故持
其大刀弓追避其八十神之時每坂御尾追伏每河瀬追
探而始作國也之所見たる意礼為大國主神亦為宇都
志國玉神之御父大神より御事任あり始作國也
之ハ其御命を奉りて其大國主と申す神業を始て行
ハせ給へるあるが此始字ハ一本より其須賀宮小
御在一坐初ける御時より行ハせ給ふ可き御職ある

今其傳廿三
注云如己小御其
須加見宮を定の
世給ふ所見て
記云志宇都出
神云無野武
乃命共五百津
鉏所取而所産天下
大元持命二所大神等
依奉故三神有
此不能野給て神地を
定させ給へるれ
此を国作の始と云へ
此三神の御事
あり故此後

を此に至りて大神の御命を得させ御在り坐て今ハ
阻奉れる八十神あども悉く小飯順ひ奉れる上ハ愈
以て其御事をめも力行ハせ御在り坐す由此始作国
世の文を以て著明き者あり
此より以前ハ故此
大元主神之尻第八
十神坐然皆国者遜於大国主神所以避者之書出れ
たるわ心を著て味ハふ可き事あり然れハ此を見る
事正書の清宮を譲聞えさせ給へり其故其始ハ大
件より合せ読ずハ甚明りありざり
国主神唯一柱のこが此国土ハ經營させ御在り坐け
る但御父大神の御言ハ為大国主神と詔給へるハ各
国ハ在りる国主神を帥て其君長と御在り坐せとの
謂あり亦為宇都志国玉神といハ上九十九
三下ハ注るが如く

此ハ其荒魂大国魂神の御事ありて其も謂ゆる大地
官を治めさせ御在り坐へき由を事依り授聞えさせ
給へるありけれハ此時己み其和魂神荒魂神共ハ出
来させ御在り坐て其和魂大物主神ハハ専八十萬
神を領て国士を守衛させ給ひ荒魂大国魂神ハハ
専大国主神ハ副て國作の御事を勤り之助成させ御
在り坐けり見えて大倭神社注進狀ハ傳聞倭大国
魂神者大己貴神之荒魂與和魂戮力一心經營天下之
地建得大造之績在大倭豊秋津国守国家因以号曰倭
大国魂神亦曰大地主神と有て國作の御事ハハ此神

の先よ立せ給へるハ地の主と坐す物の主と坐す
の差異有が為あり又其大國主神の大后須勢理毘
賣命ハ謂ゆる三女神を合せ奉る御名ある由傳十五
二百十の注るが如し然るハ其瑞珠盟約章第三一書
ハ号曰道主貴と所見たるハ國主貴と申奉る義あり
ハ大神の後の御政を治めて天下經營の御事を物為
させ御在し坐す由あるハ右ハ引る神祇譜天圖記ハ
允此神生子一百八十一神以尔五柱為珍子而天下四
方國人夫等令咸蒙恩賴之所見たる五柱ハ其所百三十一
下ハ注せる如くあるが其味高彦根神と申すも未

紹を執せさせ御在し坐して國作の御事を物為させ給
へる由あり又天孫降臨章ハ下照姬命の亦名を推國
玉と有を以て其荒魂和魂神大后神、更あり其五柱を始と
して御子等奉りて供奉りて共與ハ國作の御在し坐
ける御事次ハ有ける猶古事記多延具久又ハ久延毘古をも
供奉れる事所見たる此を以て九國土在と有ゆる
諸神ハ一も大小と毎々悉く從奉りて其御制令を仰
ぎ奉れる事をあむ見奉り知べりける又ハ彦名神
て其所屬の神等多在りし見えて次ハ引る古事記
ハ其依來坐る所ハ爾虽問其名不答且虽問所從之諸
神皆阿白不知と有を以て其神の出立ハ阿所從の
諸神の共々多く御在し坐ける御事を明く玉可き者

△を仰て其大國
主神ハ其々給へ
るハ益々其
御事ハ盛大ハ成
せ給へり

あり故其女彦名神の依来坐て此大己貴神の御力を
合せさせ御在し坐す御事ハ此文の初大己貴神之
平国也行到出雲国五十狹狹之小汀而且當飲食是時
海上忽有人聲乃驚而求之都無所見頃時有一箇小男
以白藪皮為舟以鷓鴣羽為衣隨潮水以浮到大己貴神
即取置掌中而託之則跳躍其類乃怪其物色遣使白於
天神于時高皇產靈尊聞之而曰吾所產兒凡有一千五
百座其中一兒最惡不順教養自指間隔墮者必彼矣宜
愛而養之此即少彦名命是也と有る是あり故此初字
古事記ハ幸魂奇魂神の出させ御在し坐すより以

前ハ此少彦名神の傳をハ載られたるを此ハ其事
託て後ハ廻されたる故ハ置れたるあり儲大己貴神
之平国也云ハ己の引る彼記ハ故持其大刀弓追避
其八十神之時每坂御尾追伏每河瀬追控而始作国也
と有る此時ハ上五十八千女神の傳ハ引る大倭神
社注進狀ハ傳聞八千女神者大己貴命以廣牙為杖令
控平豊葦原中国之邪鬼是時大己貴命号曰八千女神
と見之天孫降臨章あり国避の所ハ乃以平国時所杖
之廣牙授二神と有めて其始て国作らせ御在し坐し
間ハ其作らせ給ふよりハ邪鬼を退治る事を先ハ為

させ給へるが故小平国時と云て其事其最初ありし
御時を指あり此少彦名神より御力を合せ小依御
在し坐し聞ふハ己小国ハ平らきて唯一向小国作の
御事ありけし其ハ古事記ハ故大国主神坐出
雲之御大之御前時自波穗乘天之羅摩船而内剥鵝皮
剥為衣服有歸來神尔虽問其名不答且虽問所從之諸
神皆白不知尔多还具久白言此者久延昆古必知之即
召久延昆古問時答白此者神産巢日神之御子以名昆
古那神故尔白上於神産巢日御祖命者答告此者実我
子也於子之中自我子侯久岐斯子也故典汝葦原色許

男命為兄弟而作堅其国故自尔大穴年遲典少名昆古
那二柱神相並作堅此国と有が如く今迄大己貴神一
柱あり且も事始めさせ御在し坐ける御業を此小
至りて其少彦名神と共小更小物為させ給へる由あ
るを思ふ可し但右の天神の御言小葦原色許男命と
指詔へるハ事因平の御時あるが故あるを其二柱神
相並ハして此国を作堅めさせ給ふ御事を云ふハ大
穴年遲神の御名を以書されたるハ大ハ意有を曉る
可き者あり其葦原色許男命と申す御名ハ上五
十二下ハ注せしが如く其始御父大
神の然詔給へる御言ハ出て武勇さ御稜威を布て
天下を平らげ御在し坐す意ありて八十女神とも称申

せりし御時の事おれは其意備此小奉たる夫大己貴
を加へて見奉り知べくあるを（文意簡易小）
命共少彦名命より以下至常世郷矣と云迄僅小百四
十七字おれども此一書中の眼目あるを以て實小大切
トす御事共あり此を分ち見る小允て五段あり先始
小夫大己貴命共少彦名命戮方一心經營天下と有る
此（即二神の御大業の主たる者なり）一段あり古事記の故自尔大穴年遲與少名昆
古那二柱神相並作堅此国と有る是れ一段あり次
小復為顯見蒼生及畜産則定其療病之方と有る人畜
の疾病を療治る方を定めさせ給へるめて此段一
書小清之湯山主と申す御名御在り坐り已小湯泉を

を始めさせ御在り坐ける起えある事傳廿四二十小
已小徴り奉るが如く醫藥の事ハ古事記ハ漏され
たれども於是大穴年遲神教告其菟今急往此水門以
水洗汝身即取其水門之蒲黃敷散而輾轉其上者汝身
如本層必差故為知教其身如本也と有て始より療病
の事ハ御心御在り坐る由其も傳廿四四十小且て云
り此ハ二段あり次ハ又為攘鳥歎昆虫之災異則定
其禁厭之法と有る此も醫藥と並たる事あり古事
記大穴年遲神の御父大神の御許ハ到坐る所小其妻
須勢理毘賣命の授給へる小蛇此礼吳公蜂之此礼の

御事有て事災異を禳ふ事を主として其用ふは狀異ありけれは此も別々一種ありて此れ三段あり次々嘗大己貴命謂少彦名命曰吾等所造之國豈謂善成之字少彦名命對曰或有所成或有不成是談也蓋有幽深之致焉と有ハ天下を經營せ給へる上々國土を保たせ給ふ道を問答させ給へるありて決めて幽深き致有る事あり右々混々為さしきあり此れ四段あり次々其後少彦名命行至熊野之御碕遂適於常世郷矣略ハ古事記ハも然後者其少名毘古那神者度于常世國也と有て其始夫より天降らせ御在し坐て一々成給へる神等の別れ

其處を別々為させ御在し坐て猶始の如く相經營せ給へるあり必しも深き所以有る事あり此れ七段と成れる者あり此五段ハ分て其段々就て事ありて故々多クハ其義を盡さざる者あり予如此其段落を立て説ハ其意猶盡さざる心ありす甚く深く遠く妙ハ奇ハ御事共ハあり
○夫大己貴命與少彦名命古事記ハ大穴年逢與少名毘古那二柱神と其字ハ共典トモの義あり事次々云べし偕此大己貴神の御名凡て命とも神とも申せる中ハ神上ハ七名を擧ぐられたるあり國作大己貴命のこハ神とハ書されず故思ふハ正書ハ生見大己貴神と載るれ

て此の命字を用ひられたるは其命令の義を明さむ
とあり可し其の古事記の先伊邪那岐命伊邪那美命
と載りて其国生敗のハ於是天神諸命以詔伊邪那
岐命伊邪那美命ニ柱神修理國成是多陀用幣流之國
賜天詔而依賜也と有を始として此より以下ハ
ハ何れハ神字ハ換て命字を被用たるハ其天神諸の
御命を奉て其言依給へり御事を行はせ給ふ所
あるが故ハ右の如く文法を正して書されたり若
ありけり又御紀ハ此書ハ一書ハ初五十猛神天降
之時云と有て其末ハ所以稱五十猛命為有功之神

と書され第五ハ一書ハハ千時素戔鳴尊之子号曰五十
猛命云と此も御父大神の命令を兼行はせ給ふ由
ある事其下文ハ凡此三神亦能分布本種と有て知
る此たり此大己貴命も亦右の例共ハ准ふ可し抑
其国土經營の御事ハ一ハ古事記ハ所見たる御父大
神の御命ハ意礼為大國主神亦為宇都志國玉神と有
ハ更あり又同記ハ其少名毘古那神の御事を天上ハ
白上させ給へる所ハ其神產巢日御祖命の御答ハ故
興汝葦原色許男命為兄弟而作堅其國と詔給へる其
御命を蒙り負持せ御在り坐て天下を經營り物為す

せ給ふ所あれバ此ハ大己貴命也亦彦名命と相並
 べて共ハ命字を以て書されたる者ありけり但此ハ古くハ
内傳ハ此ハ神と命との意有て書別れたるを此ハ
右の如く神と命との意有て書別れたるを此ハ
神世七代章の至貴曰尊自餘曰命並訓美奉等也之有
唯ハ尊稱ハ取れハあり命全を奉行ハ本
然ハ其命令ハ依レハ大造の績ハ一も建つ事ありハ自
すハ有ハ成レハハ其本末有る事を得知
ハ有ハ成レハハ其本末有る事を得知
 ○少彦名命古事記ハ少名毘古那神と作
 れたハ毘を濁て読む例と所見たハ仁明天皇御紀嘉
 祥二年三月四十宝篋を奉賀歌ハ賀美侶伎能宿奈毘
 古那加葦管遠殖生志川國國米造カ典理と有る是あり
 然るハ文徳天皇齊衡三年実録有る二神ハ依來坐る

所ハ神憑人云我是大奈母知少奈比古奈命也之録ハ
 此万葉十八二十ハ於保奈年知須久奈比古奈野神代
 欲里伊比都藝家良之と見え伊豫風土記ハ宿奈毘古
 那命とも有て毘と比共ハ通ハ一用以たハ一あり儲
 少名ハ名ハ上四十ハ注るハ如ク其大己貴命ハ一も
 亦大名持神とも申して名と云ハ土地を云稱ありけ
 れバ名持と云て天下ハ在ハ内ハ國主又地主ハ神等ハ
 首領ハ御在ハ坐す謂あるを此少彦名命ハ一も其大
 己貴命と等しく相並ハ一御在ハ坐て國土を經營ハ
 せ給ふと呈も其神ハ大國主神と申奉りて御父大神

の御事依一を受奉る世御在一坐て受張たる天下の
 国主神の渡らせ給ふが故に国作大己貴命とも申奉
 りて其幸のハ主神にて坐を此少彦名命ハ一も国主
 神と申すゆへハ本より御在一坐す唯其国作の御業
 せしも傍より副御在一坐て共々成給へる御神の
 て渡らせ給ふが故に少名ハ申奉れりあり故其大
 の對へてハ必小と云べきを此ハ多少の義ハ取れ
 るハ其謂ゆる名持の多く帥給ふと少く從給ふとの
 差有が故あり多少ハ取ハ古事記白菟段ハ其族
 族多と有是ハ其族と云ハ右ハ云ハ諸國ハ在
 内國主神又地主神ありとを族と一て此ハ云事あり
 大己の對ハ右ハ云ハ諸國ハ在

△播磨國生記
 サ比古屋命と有
 て常小

古事記輕之塚原宮段ハ大毘古命次次名日子達摺心
 命と有て大と少名とを對へたり又仁徳天皇六十
 年御紀ハ飛彈國有一人曰宿儺と云事ハ見えたる
 ⑥も右ハ同ト云ハ此ハ宿儺ハ並ぶ者無さ申ゆへ
 意異あり故此少名ハ土地の事あり毘古那
 ハ彦根と申す例同可ト所以ハ唯ハ少名御神と
 も申せり神功皇后御紀の御歌ハ虛能弥此御酒企破和餓弥
 企那羅儒區之能伽弥等虛豫珥伊在麻輸伊破多立須周
 致那弥伽未能略下と有を古事記ハも須久那美御神四微能
 と作るを私記ハ少彦神者是造酒神也今有遺迹云と
 注され万葉七三下ハ大穴道少御神作妹勢山見吉奈
 と有是あり又古史第九十段微ハ引東大寺戒

檀院神名帳小大汝大明神小汝大明神と有ハ大汝神
小對ひて以汝神と申奉る證是あり猶神名式小越前
国丹生郡大虫神社大神小虫神社丹後国典謝郡大虫
神社大神小虫神社大神と有ハ那牟遲を切て牟遲と
云へきを牟斯と云ふて貴主を切たる如き御名を
事下百七十小注るか如く又上野国神名帳小群馬
西郡從三位大奈知明神小奈知明神と有も右小大汝
小汝の那牟遲の中略あるて已小傳十三四十小注
るか如く熊野三所の中那智ハ大己貴命小渡りせ
給へるふて知べきあり又古事記訶志比宮段小謂由

る伊奢沙和氣大神ハ一も此神小渡りせ給ひて女別
神の義ある事下八百五小注云べく又神名式小播磨国
賀古郡日囹坐天伊佐ハ此古神社を宰相記ハ少彦命
と申すあり共小亦名めて御在り坐す申下百七少
彦名神の傳り委りく注し奉るむを合せ見てより
此伊奢沙和氣大神又天伊佐ハ此古神の御名ハ纂疏
ハ少彦名以形体短小為名と注せ給へると同ト意
味あり上あり少名の名ハ○大己貴命ハ少彦名命
の與字ハ共興の義あると古語拾遺ハ大己貴神與
少彦名神共と有わて愈明りけし古事記の此国作段
ある神産巢日御祖命の御言ハ故典汝葦原色許男命

為兄弟而作堅其國之有_レ其為兄弟ハ即其事を共共
小為させ御在_レ坐へく仰給へるあり故自尔大穴年
達典少名毘古那ニ柱神相並作堅此國と有_レ相並の
言ハ其為兄弟而の御言を兼たるわて即與共の意を
事云も更あり故其少名毘古那神の常世國の渡り
御在_レ坐たる所ハ於是大國主神愁而告吾獨何能得
作此國孰神與吾能相作此國耶と有_レ其與共ハ物為
させ給ひ_レ神の御在_レ坐ず成給ひ_レ故ハ吾獨とハ
詔給ひ今將ハ與共ハ事成_レ給ふ可き神を求めさせ
御在_レ坐て孰神與とハ詔給へるあり此次ハ是時有

光海依来之神其神言能治我前吾能共與相作成若不
然者國難成と有_レを以て其與共ハ為させ給へる御事
を知べ_レ此故ハ万葉十八_二於得奈牟知須久奈_一
比古奈野神代欲里伊比都藝家良之略と詠るハ其二
柱神の相並ハせ御在_レ坐ける當昔を指て云る古語
あり又其三_三大穴道_三乃將座志都乃石室者_一
幾代將經と有_レ其相與共ハ國作り御在_レ坐_一間ハ
御在_レ坐たる所を云あり七_二大穴道_二御神作_一
妹勢能山見吉と有_レ其相並ハ_一乙作_レせ御在_レ坐
ける傳ハ因れり又其六_二大穴道_二能神社者_一

名著始雖目名耳字各見山跡負而略と有ハ相共ハ国
 を作^ス給^ヒて物^ヲ号^サせ給^ヘるを云く如此く二
 神^ノ係^テ傳^フる事ハ唯咏物の上^ニ非^ズ決^メて惟
 ろ古傳を心^ヲ持^チて詠出^ル者^{アリ}けり

 事^ハ六^ノ卷^ノ八^ノ十^ノ神^ノ御^世自^百舩^之泊^停
 跡^云十^ノ卷^ノ八^ノ十^ノ神^ノ自^御世^之嬾^人知^尔未^告思^者
 と有^ハ其^二神^ノ相^並ハ^一御^在坐^ニ國^土を^經營^ス
 せ御^在坐^ケる^ヨリハ^遙ハ^以前^有る^事上^五十^八丁
 註^リ己^ハ備^右引^リ古^事記^ハ爲^見弟^而と^云事^ノ有^ハ

皇產靈尊聞之而曰吾所生兒化有二百座其^中一^兒最^惡不^順教^養自^指間
 漏^墮者^必彼^矣宜^愛而^養之^此即^少彥^名命^是也^と有^を
 以^見る^ハ其^始天^神ノ御^許ハ御^在坐^ノ間^ハ其^十五
 百^座中^ノ一^兒ハ坐^テ其^時ハ未^行事^御在^坐さ
 り^つれ^バ何^とも稱^ふ可^き御^名御^在坐^さる^を此^ハ
 大^己貴^命と兄^弟と成^テ此^國土^を作^堅め^させ給^ふハ
 至^りて其^行事^を以^テ少^彥名^命とハ稱^奉れ^るあり^け
 り然^る時^ハ大^名ハ對^ヘて少^名と号^奉れ^る事^上ハ已
 小^注る^ガ如^ク愈^以て著^明き者^{あり}けり
 備^此文^ハ宜^愛而^養之^と詔^給へ^る御^言を合^セて考^るハ其^御子^ノ

少彦名命と兄弟と為させ給へるハ其大己貴命を
て産靈神二柱の御子カ擬へ所思食むと云事ある
を誰しも其為兄弟と云事の之を尤けく云て此御事
小依て其大己貴命の御威力以前ハ弥勝せ御在
坐て終小其大造の績を立させ御在し坐す御事を
知さるあむ実ハ心苦しき事ありける此結成てハ改ある
幸魂奇魂神の所ハ至りて甚く奇異ハ妙ある旨有里
傳三下百ハ委し云てむを思合せて其然る所以を
見奉り知べき者ありけり但此ハ此大己貴命ハ限
ず凡て天下国工ハ大功を立る人ハ又其事の條理

小就て心傍より来り轉弱る者の出来りて與共ハ其
功業を合成る事の基あり又其功業を合遂る為ハ幸
魂奇魂神の御在し坐し預て相致し給ふ事の必正ハ
有る事の本ある者ありけり然れハ此ハ為兄弟よ
ぬ可く又此下文ハ其少彦名神の御事を且愛而養之
と詔給へる御事の有ハ又大己貴命をハ愛人ハ之
所思食むと云義あるを唯一途ハ俗ハ謂ゆる擬兄弟
ハ還ふ所有る物ハ○戮力一心金沢本又古語拾遺共ハ
戮を勸め作り此語ハ大三輪神三社鎮座次第ハ初
伊弉諾伊弉冉二神共為夫婦生大八洲国及處ハ小島
而地維如水母浮漂之時大己貴命共少彦名命戮力一

心殖生蘆^葦固造国地^下と見え又清寧天皇御世大三
 輪神の御託ゆも上古吾典以名彦命戮力一心所以経
 營天下其所以而今少彦名命来臨吾邊津磐座與吾及
 和魂共能可敬祭^{夏之後の物なり本朝事也少彦名命共其命自今方と}
 神ゆ^り戮力一心ゆして国土經營の大功を立させ御
 在し坐ける證是あり此外ゆも大倭神社注進状ゆも
 傳聞倭大國魂神者大己貴神之荒魂與和魂戮力一心
 經營天下之地建得大造之統と云事有^{同ト神の御上やとす}て荒魂神と和
 魂神と戮力一心と云事有^能り但此ハ荒魂の進ませ給
 ふと和魂の固守らせ給ふ^{其趣}同所異^は御在し坐あ^ら

少御力を合せ御心を一少為させ御功一坐て事成
 一給へる少就て考ふるゆ大己貴命の(大)と少彦名命
 の(少)と其兄弟と成給へる所一少して其御上あてハ
 大と少との異有ゆ大少趣有ぬ可き御事ゆて有けり
 其同物ゆて合^せ異^なるゆて聚るが故ゆ其勢実ハ正
 小^少投^下く成る理を明らむる事必此ゆ在べき事あり
 然るハ天地の高低を合せて世中立ち日月の来^給を
 一少して晝夜有^ぬが如く陰陽と云ハ寒暑と云ハ水火
 と云ハ男女と云ふと皆共ハ同物の並ぶゆ非ず異^なる
 の一少成て各其用を成すゆ等^し此二柱の御上ゆ

ても大己貴神命ハ一も大くある方の御心を盡さ
 せ給ふ可く少彦名命ハ一も細く一き事ハ御力をあ
 む入させ御在り坐て天下経営の御功業ハ一も必立
 させ御在り坐けむとぞ 想像の奉らるゝ御事ありけ
 り 諸其ハ就て又思合せらるゝ事ころ有けれ此皇大
 御回ハ一も二神等相並ハ一御在り坐て作らるゝ給
 ふ中ハも中項少彦名命と共ハ作らるゝ給ひし故と
 其前後ハ大己貴命唯一柱ハ物為させ給へる故と
 見えて皇国の風儀ハ一も自然ハ物為させ給へる故と
 國ハ一も其始少彦名命の作始させ給へる故と
 後ハ大己貴命も渡り御在り坐て共ハ作らるゝ給へる
 物ハ一も然る所以ハ申れりけむハて外國ハ事物共
 小言痛くハ賢しき者あり然りて外ハ皇國の大ハ
 きりてふても事を成す此を以て外國より何れハ
 物の渡り参来て大己貴國の利用と成るハ全ハ此大
 己貴少彦名二神の恩頼ハ依りて事傳二十六卷八十

九丁園轉神の下 儲此戮力と云事ハ一も各其神等
 の老合す可一 堪能なる所の所作を合せ給へる由あり此力と云事
 ハ一も傳十九 百九十九午力雄神の下ハ注るが如く通
 證ハ力筋幹也と云る狀ハ其本ハ筋骨の事^{強壯あり}を云て其
 あり眼の能見るを眼力と云ハ學の能得たるを學力
 と云を始として筋骨を用ふる外ハ事ハ一も凡て其力
 と云^{ハ又カ行を勤と云ハ右より出たる事あり} 事常あり譬て云ハ一も大己貴命ハ一も内經の事
 小未^{共其カ}ハ一も少彦名命ハ治術ハ詳ハ御在り坐ける其御
 力を併せて病の方を定めさせ給へるを云て此國作
 の御上ハ於てハ本より各得させ給へる所を合せ給

目力ハ眼力目力是
 也注させ給へる
 是あり其堪能
 ある所を併せ給
 御事を今

成せるハ唯此大八洲国のミあり一を潮沫の凝苗ま
れる国としてハ此第四一書ハ新羅国の称有り第五一
書ハ韓郷之島の名有テ素戔嗚尊の御時より漸次ハ
外国の形有を其大神を建邦之神と申一其御子五十
猛神を韓国伊太良神と申して此二柱也大抵大地万国の地形
を成一給へりける素戔嗚大神亦御名を國引坐神と称奉れ
ハ其大神が大凡ハ此也定めさせ給へりけるを全ク
ハ此二神ハ一て成就へる状ありければ其以前ハ
天上ハ對へて天下と云ハ葦原中国云けるハ此大八洲国のミを指
て云意ハ大地萬国の皆ハ且れり一者ありけり然れ

ハ大國主神と稱奉るも天下萬國を根ぬ御在一坐す
大國主神ハて渡り給へる御事申すも更あり一
大三輪神三社鎮座次第ハ初伊弉諾伊弉册二神共為
夫婦生大八洲國及處ハ小島而地稚如水母浮漂之時
大己貴命與少彥名命戮力一心殖生葦原國造國地故
號曰國造大己貴命因以稱曰葦原國と有る此處ハ小
島ハ一ハ八洲起元章ハ謂ゆる處ハ小島皆是潮沫凝
成者矣と有る是ハ外蕃諸國の始ある事傳六百四
丁七ハ十ハ己ハ注るが如ク其始此大八洲國ハ葦原
を殖生一て國造給へる故ハ先葦原國の稱有ハ己ハ

成れるを以あり然る時ハ其地維如水母浮漂と云物
ハ其外国の初と有し處ニ小島ト係り事と成れり此
を以て少彦名神の渡りせ御在り坐すり以前ハ国
形を成せる物ハ獨此大八洲国のとあり一々天下
と云ハ葦原中国と云物其指す所ハ此かぐろ云意ハ
大地万国を兼たる惣稱めて有し事を明く可くか
む有ける其ハ四神出生章第十一書ハ天照太神在
於天上曰聞葦原中国有保食神と有ハ天上
すり天下ハ然る神の有る聞食の由あり又古事記石
屋戸段ハ亦高天原皆暗葦原中国悉闇とも高天原及
葦原中国自得照明とも見え此ハも宝鏡開始葦原三
一書ハ故不可住於天上亦不可居於葦原中国宜急適
於底根之國乃共逐降云と有るかど天上ハ對へて天下
之へべきを葦原中国と云るを以て其始外国ハ未有

り事を知べし然れハ此ハ天下と有ハ本より此葦
原中国の事あざり追次て二神の造固めりせ給ハる
大地萬国の全ハ且れ故此ハ經營天下と有ハ古事記
ある神産巢日御祖命の御言ハ故典汝葦原色許男命
為兄弟而作堅其国故自尔大穴牟遲典少名毘古那二
柱神相並作堅此国然後者其少名毘古那神者度于常
世国也と見えたるハ天上より此大八洲国を指て其
国と詔給ひ此めて其作坐し御事を傳へて其此国と
書し其未作らせ御在り坐ざりし外国を常世国とハ
記されたり者あり此ハも經營天下と有る此事ハ
應へて下ハ嘗大己貴命謂少彦名命曰吾等所造之國

豈謂書成之乎少彦名命對曰或有所成或有所不成之有
也即此大八洲國の事ある由次少彦名命の御行方
を載りぬたふりて著き事あり大倭神社注進狀小倭
大國魂神者大己貴神之荒魂典和魂戮力一心經營天
下之地建得大造之績之有も本より此大八洲國ある
事云も更あり其外國を經營し給ふ其始ハ一と傳
廿六凡十注せざるが如く此少彦名神命の常世郷ハ
渡り御在り坐りハ彼國を作堅ふ出坐り御事あるを
此天孫降臨章ハ大己貴神の今我當於百不足之八十
限將隱去矣言訖遂隱之有を大倭神社注進狀小引る

小ハ右の言訖より続きて即躬被瑞之八坂瓊而長隱
常世郷者英と有て此時より少彦名命を逐て彼國ハ
渡り御在り坐り趣あり下文指かり引る故文徳天皇實錄十齋衡三年
十二月戊戌常陸國上言鹿島郡大洗磯前有神新降略中
時神憑人云我是大奈女知少奈比古奈命也昔造此國訖
去往東海今為瀛民更亦未歸之有て昔造此國と云ハ
即此大八洲國を作堅めさせ給へる事ある由右小注
るが如く若て去往東海と云ハ明す可き文無きを
熟考る小西方韓國ハ渡御在り坐り往巡りて東海中
り歸御在り坐り御事ありけり右の注進狀國韓神の

下小或抄云大已貴命少彥名命神記曰昔造葦原中国
訖去往東海今為瀨氏更亦未歸因以号而神云韓神歟
古語外国云韓也と有ハ全ク右の御紀の據て之事を
よが此の小造葦原中国と有り斯れば此の經營天下
之云ハ此のてハ大八洲国のその事あづる其末萬国
の目了事右の如くありければ少くも虚称ハ非ず
てある故出雲風土記ハ此大已貴神の御事を所造天
下大神と云る如き實ハ誇稱ハ非りけり如此く天
下と云事
ハ大地の全ハ且る事ハ有れども其ハも次弟の有
る事ハて上古の天下と云て此葦原中国より外ハ国
無り此ハ二神の悉ハ經營せ御在坐て後ハ萬
国を作堅させ御在坐せけれハ萬国を惣ても天下を

事云も 故此天下を經營し御在坐ける狀ハ
も先海岸より作立させ給ひけり已れり引了大三
輪神三社鎮座次第ハ初伊弉諾伊弉冉二神共為夫婦
生大八洲国及處ハ小島而地維如水母浮漂之時大已
貴命與少彥名命戮力一心殖生葦原国造国地故号曰
国造大已貴命因以稱曰葦原国と有ハ更あり仁明天
皇御紀嘉祥二年奉賀天皇室等滿干四十長哥ハ日本
乃野馬臺能國能賀美侶伎能宿那毘古那加葦原殖
生津志津國志津國志津米造典理瀛津波起川毎年尔春波有禮今
年之春波每尔滋榮弓天地乃神毛悅北海山毛色声

變志云こと有を合せて思ふ初二柱御祖神の生坐
一程の漸々大八洲国の形を成せるのこゝて實
水母の如く浮漂するを素戔鳴大神を以て國
引坐神と稱奉りて形の如く國定の給へりしごと
猶悉く成就へりしといふべからず此の於て大己
貴命少彥名命二柱神先其國作の初海邊あり地
蘆葦の管を殖させ御在り坐てある國固め造給ひ
けり（上宿の注）彼生島神詞（鹽味能留限）狭國者廣くと有る如此く為さ
せ御在り坐て國を弘めさせ給へる御事あると思合
す可き者ありし若て出雲凡土記楯縫郡不在神祇

官と有る十九所の中葦原社又葦原社葦原社とて
御在り坐を稱此外の社有て凡て四社共福村
葦原谷と云所御在り坐て今葦原薬師と申すめ
此二柱神ハ一も謂ゆる薬師神ハ渡りて給へれば
古國引坐後其國ハ一も意宇（神門）大原仁多飯石の五
郡ハ一も陸地不相接き島根秋鹿備後出雲の四郡ハ
別の一島ありて其頃大己貴命の住せ御在り坐ける
宇迦能山本宮ありて近く此時少彥名命の寄坐り
五十稜之小汀ありて間遠きさめけり此の地よ
り始させ御在り坐て終つ大八洲國を悉く葦原國と

成し給ひ此より及ぶして少彦名命の外國を固めさせ給へるも必然有けりと思へりけり此小葦原谷之云ふ地名の有る依て此説を説くるも非ず右の如く古小葦原社にて三社有る今現る四社あるを葦原薬師と申す事今祀る後二七例の非ぬ胡神あるも元此薬師神より混来此事著りゆけれバ此葦原國之云事の初あるもあむ有べりけり葦原の事ハ上四十八下ハ注る葦原醜男神の所云を考合す可し備右の注進次葦原葦原を平田史の屋代弘賢本に依て葦原小作ルを取れり然れど下文の稱白葦原國と有る對見る小葦原の方や勝りたるも但葦原管共小凡同種の物あり必其生る所あり共生さべき事ありけれバ義不於て妨有る非ず又地神本紀ハ大己貴

命初與少彦名命二柱神坐於葦原中國如永母浮漂之時為造号成已訖之有る此号成已訖之有る葦原を殖生し給ひて葦原中國の号も成り由あり已小傳ハ田給止十七下中云るが如く大命持命と申奉名ハ土地の事ありけれ右の号成と申奉云い那と流と訓て土地の成るを云ゆ故右に注るが如く葦原中國と云號の葦原ハ已小出雲國ハ起りて大八洲國の惣稱と成り後の海外の諸國も起る事と成れるハ其少彦名命の御在し坐し著せさせ給へる地ハ已小其國ハ在り若て其天神の御命を奉て大己貴命と兄弟と成り力を戮せ心を一して天下を經營し御在し坐しけり其始も亦彼國ハ在へり事更論を待ずあむ有けれハ今試み此國ハ始て諸

山本朝事... 御事... 御事... 御事...
 御事... 御事... 御事... 御事...
 御事... 御事... 御事... 御事...
 御事... 御事... 御事... 御事...

固小及不御在坐ける御事... 著明くりけれ
 其神迹も思得一二を挙てむを猶各園の古記の傳
 らる所古老の傳ふる所も有るむを有志の輩猶探索
 む可き事ありく其風土記の飯石郡多祚郷属郡家
 所造天下大神大祀持命須久奈比古命巡行天下時
 稻種墮比處故云種神龜三年と有る事の状を思ふ小
 此二柱神の國土を經營し御在坐す主意ハ川澤
 を通して田園を墾開き五穀を作し桑麻を殖て大ハ
 民命を救はせ給ひ御意御事して天神の御命以て此
 二柱神を兄弟と成して其國御事固てよと詔給へる大

御意も石の御事の外御在坐べらざるを以考る
 右の稻種傳三十八卷六十一注子かくも其二柱神の御為正しく皇祖天
 神の天降し授け依り賜へるありけり其ハ古事記大
 宣津比賣神の御身より諸種物の成出たる所ハ故是
 神産巢日御祖命令取茲成種と有て傳其事此ハ四
 神出生章第十一書ハ天照太神の御事と爲るハ
 互ハ被略乃りし者めて其實ハ天照太神高皇産靈尊
 神皇産靈尊三所の御計ある事申すも更ふり此出雲
 の類例ハ己ハ傳十四百四十一ハ引る伊賀風土記也此
 郡始属伊勢国云阿波莊天照太神自天上下天之阿波

主給五穀長蔓故名阿波謂阿孟者音訛也之所見たる
を神名式阿波阿拜郡敢國神社大是なり其所祭少彦名
命坐于田風土記所注を合せて其出雲國不墜
降北の種も亦此不准しひて皇祖天神等の恩賜あり
し事不明も可き者あり此不其出雲風土記飯石郡
不在神祇官之有る十五所の中狭長社日倉社にて
見え給ふ其多祢郷の故事由有る神云なり
其狭長社同郷掛谷村佐長里に御在り坐て今勝手
大明神と申せり狭長に謂ゆる狭長田の謂ひて天上
の種子を始て殖し給へり申あり可く勝手大明神

糧神カテノカミと申す事不即保食神に渡り給ひ日倉社
同村日倉山に云ふ立せ御在り坐り即飯倉と云事
して即二神の御稲を積置せ給へり謂ゆる稲
倉の古趾あり可くして風土記の傳ふ所と神祠の
今存す所と相契合ひて甚し謂ひ有る御事なり右
風土記抄不當郷有狭長社狭長田之謂字當考當時曰
勝手各國有勝手社祭神保食神也又有日倉社蓋飯
倉也神國武藏國飯倉有小本著て云説あり備大
和國吉野郡金峯神社大考命を本として大己貴
命神武天皇を祀り所あり然し其神小勝手社に
申すあり立せ給へりけり或書し其受命と云ふ
謂ひあり宇氣神と申す事あり然し異し字を此
者あり可し紀伊國神名帳海部郡從四位上勝手
神鳥神甲有紀伊國神名帳海部郡從四位上勝手
云ふ在俗に稲荷と稱すと云ふも考合下可し但右

の鳥神ハ若クハ鳥神を誤ル事アリ非ハ師兼千
首山御古野ヤ勝牛の宮の山鳥神ハ仕ム身も舊小
けりとの有ハ依ハ山鳥ハ神の使令ある趣アリ猶諸回
保食神を祀中ハ尾張國知多郡ハ勝牛社有を其も
此石室ハ此二柱神其出雲より起りて國工を巡作り
御在ハ坐けり時ハ必寓居御在ハ坐けり古述あり當
昔穴居野處と云状ハ非ハめども斯ハ大事を企御
在ハ坐す御上おてハ争でハ宮室を營ハ御在ハ坐す
程の御餘暇ハ御在ハ坐す唯其地方ハ在る所の石室
ハ據て御功業を成ハ給ハけりハ此を以て並て

公玉勝間夜雪卷石
見國色知郡岩屋村
有ハ里人志ハ屋
云ハ出備後境
ハ地ハ津
ハ里余東方基
ハ地ハ
屋高ハ五間ハ有
大岩在ハ其近傍
許多有ハ百六十年
屋ハ名ハ二神ハ隠給
ハ岩屋ありハ昔ハ
ハ里人語傳ハリ有
古ハ即此岩屋を祭
ハハハハハハハハ
外ハ別ハ社を建
祭ハ志津権記ハ
ハハハハハハハハ
即

上古の状又思ふ可うしず伴高蹊ハ閑田次筆ハ石見
國色知郡の山中ハ静慮と云有る由りて其圖をも出
せり是ハハ津和野山中を安藝國へ越ハ路傍ハ在
と云ハ又備後國惠蘇郡帝釋山と云ハ雌雄の石橋有
を相傳へて大己貴命の神造ありと云ハもと決ハ此
二神ハ御功あり成ハ者有る可ハ菅信卿と云人の
鬼橋記ハハハ寛政壬子初夏五日得晴郊行四里抵金
丸村自此入山山行三里宿桑木村六日早發四里抵暮
峠又行三里右折走鬼橋踰ハ嶺嶺窮而坡ハ窮而ハ四
面皆山如投井底漸下得一懸瀉聲夷脚下即橋背也

雜樹茂盛如行山岡身在橋上而不知橋既已奇下溪仰
瞻始見全形橋蓋一片石架空而起高不可名狀石皴
鱗起如真龍飛騰石液時滴鏘然作響山氣陰爽暑肌起
粟不可久居也土人傳古者堪輿初定溪神役鬼限一夜
內為雌雄二橋此則其雄下此廿餘町亦有石橋稍小此
其雌云至于帝釋取路于砌者十六町兩壁皆石屏立摩
矢有唐門者蓋一石而二洞直起可五十丈如門上架門
溪雲如鷺自洞中飞来傍有楸石人立焉蔓縛之如僧著
袈裟大抵山瘦水怒如蘓黃草書未渡一溪之勝於是極
矣懈稍寬見人家數戶帝釋佛閣在焉閣負壁臨水壁亦

金石佳則佳矣然不及鬼橋唐門諸處甚遠以上之有在以
其大抵右想不可此郡出雲國仁壽郡亦相接け
斯神こまま神造の物の存事此二柱神の御所
為非ずして何山の神の御事とうい為む此外ふて
も上野國小股山の石門或下野國庚申山の石樓る
ど天造も非ず固より人造も非ず石室の類い
も皆此神等の御事も成り者ある可き事右の志都
乃石室の事も合せ思ふ可くるむ有ける其石門の事
湯游文草も孟夏十有一日得霽而發仁田里流水而
行凡十有二里其村曰小股山稍近則石奇而流人籟
為泉聲所奪不復相語行十數里山已近則霧收雲散崖
待我而俯邪抵山寺而休足在郷導先登第一門蓋門而

○日本書紀傳二十九
○百六十二

山々而石其高幾百仞如垂天之雲兀然獨立窳門也門
楣如山影其高十數仞而根相距十餘尋門前途窮唯
導而前垂一枝藤蔓亦不顧導者上伐下披而先余相呼而
續焉乃坐一巖頭以望第門二建馬鬣崖上而壁故可
望不可出入上哀下狹偏而倚矣如左腋然但如垂天之
雲兀然獨立則似矣第門如半輪如洞口高僅十餘尺
其屋亦不甚高其間截然不可越乃所謂馬鬣之巨也獨
第門不開豁廣大二十餘尋高則居第一門三之一門前
臨不容不可測隔而樹者曰鬼寢峰峰特秀而上一平
因不可至也蓋第三近於第之二之距第一第四近於第三
之距第一第二此三遠相並三共四遠相對間皆可半里四
門皆南面自北起數者漸其峻也更有石門九狀似此
少切めて引るあり大音彼帝釋山の石門の狀似此
此より後如何小國巡り御在り坐けむとも其御道次
の御事を今より測奉り知べうとぬを姑く出雲
國を本と爲て其近き國を在り故事を原めて餘ハ

此小亞べ一但馬一覽記と云初ハ古昔諸國己小開け
たりのけふ此國ハ未開けず洪水逆行して民の居べ
き平地も無く五穀を殖す田地野も無りけり龍蛇
思蝎の栖處と成り人民を害しければ天皇炎火火出
見尊聞給ひて大物主命倉稻魂命大己貴命少彥名命
天日方命小勅命御在り坐て此國へ被遣ければ五神
勅を奉て淡路島より人民を引連れ出現坐して瀬戸
湊を地開き大河を通し給ひしうば洪水悉く流盡て
平土と成れりければ山野を焼て驅給ひける小蛇龍
ハ逃去て害を成す事無し倉稻魂命百穀を播し民ハ

上三下二己引る

五穀を作す事を教給ひて人民繁昌國家泰平なりゆ
 云ふ古老の口傳を載れり但此天皇の勅命と云事ハ
 時世も違へれば信難きを壞小大己貴命以考名命
 此國ハ開き倉稻魂命即始て百穀を播殖させ給へ
 り（ハ）其傳二十四二十八三六引了同國二方温
 泉記小上古大穴持少考名二神入田道間洲開瀬戸經
 濳此州又至二方國開此温湯後居朝來郡赤淵宮終白
 東方三河國已有て神社考傳も載れりも右と同趣
 合（ハ）考ふ可き事あり然る時ハ神名式小謂
 ゆる美合郡舊野神社朝來郡赤淵神社式外あり二方

公右郡佐伎神社
 注少考名命考名
 續風土記在佐木村東
 防少考名神佐貴大
 神諸國鎮座記但馬
 國佐伎宮より其
 海の事を守り給ふ
 又武外大神神社在
 佐木村西鎮座記小
 弟少考名命考名天
 鶴鶴尊と有れば
 是之少今昔小
 不考此祀所以詳
 考其味其味其味
 木末和老祀也
 備其

郡温湯神社等ハ正しく此二社神を並祀れるあり付
 又養父郡夜夫坐神社五座名神大二座續風土記上
 社大己貴命申社倉稻魂命少考名命下社谿羽道主命
 船帆足尼と云るをも思合す可し氣多郡氣多神社大己貴命坐朝來郡より山を
 隔てて東方ハ丹波國天田郡ありて佐々木山と云有り
 此祭神金峯山と同一少考名命大己貴命考名祀り
 て今も藏王權現と申して世小名高く又丹後國與謝
 郡大虫神社名神大小虫神社名神大見え八下五十七本（ハ）此
 二柱神小渡らせ給へれば如此く相並ひ御在し坐す
 事古傳無れば今知る由無れども決めて國造の御事

近傳の西の尺餘の
立岩有り此ハ

小就て此ハ鎮守御在坐ける小と有ける又丹
波國の古湖ハ有るを開らせ給へる故事ハ已ハ傳
二十六重下注山右の天田郡佐伎山ハ式外の
小ハ同郡梅谷村ハ岩神申して高一丈余の奇しき
大岩有り月予天保十三年三月但馬其里正許行て
過り昔天照大神の御時西宮夷三郎申す御許諸
國遊行給ふ時神馬を此留めさせ給ひ一里許日
内其供奉神の多く坐し中此地より西一里許日
置て其地ハ高倉大明神奉りて神馬の口を取せ給
ひ其時彼神此の立岩を指先若て此岩神の下
通し給ふ今ハ馬鏡幅六尺許然ハ云ふ又其
大ハ給ふ時ハ大出澄常事無く怒給ふ悦
ハ水底ハ泥涌出搔濁事稀ハ在り其外奇異
の事種ハ有る備岩神近村希ハ尊奉りて其神
著明中ハ或人蹙成つ祈め三十日ハ満
祈忽平念たり又腰祈め三十日ハ満
少彦命ハ俗ハ常世國ハ御在坐つ此ハ此ハ
蛭子の事ハ必由有て聞ゆ余奇異き事予正
救給ふ事ハ必由有て聞ゆ余奇異き事予正
く見たり事ハ得ずて故其但馬國ハ東方ハ参河國
云ざる事ハ得ずて故其但馬國ハ東方ハ参河國
小向ひ御在坐ける傳の有小本著て致ハ小神石式
小但馬國朝来郡刀我石部神社兵主神社佐囊神社御
在坐ハ参河國寶飲郡砥鹿神社賀茂郡兵主神社狹

今又傳二十卷三百八丁ハ
詳して見せしめて

今現ハ存り又供馬の足跡或鋒の柄尾を立させ給
へる跡ハ云も敷有り大岩神大岩の上ハ立給
給ひて其下を見下せ大岩神大岩の上ハ立給
ハせ給ふ時ハ大出澄常事無く怒給ふ悦
ハ水底ハ泥涌出搔濁事稀ハ在り其外奇異
の事種ハ有る備岩神近村希ハ尊奉りて其神
著明中ハ或人蹙成つ祈め三十日ハ満
祈忽平念たり又腰祈め三十日ハ満
少彦命ハ俗ハ常世國ハ御在坐つ此ハ此ハ
蛭子の事ハ必由有て聞ゆ余奇異き事予正
救給ふ事ハ必由有て聞ゆ余奇異き事予正
く見たり事ハ得ずて故其但馬國ハ東方ハ参河國
云ざる事ハ得ずて故其但馬國ハ東方ハ参河國
小向ひ御在坐ける傳の有小本著て致ハ小神石式
小但馬國朝来郡刀我石部神社兵主神社佐囊神社御
在坐ハ参河國寶飲郡砥鹿神社賀茂郡兵主神社狹

△此御道次小結終へ
 國々を御在生
 けむ御事申すも
 更ふかふ尾張國
 海部郡訪鎌神社
 波部郡諸神神社
 二柱神御神田有
 鎌を以て神体爲
 然へふふと次
 あり阿具麻神社
 老今在江城莊天
 河神天神之云々
 毛摩天神の御事
 小思合せし侍り
 然して共

投神社有り又和名砂郷名小朝来郡東河加磯部信
 の二郷有を参河国小ハ右の砥鹿神社又渥美郡御名
 磯部信有て二共小符合ひ又但馬国郡名養父不夜御
 名養父郡養父出石郡高橋波多加と有を参河国郷名小
 八名郡養父布也賀茂郡磯部高橋波多加と所見たりるど
 少縁の所由ふらざるを以思ふ小但馬国小傳ふる古
 説ある共謂有と事ありける備此砥鹿神社ハ上三一
 小注せるカ如く風土記小所祭大物主神也と注一
 宮記ハ大己貴命と書せり幸く傳三十増ハ小云ハ又兵主神社ハ八
 千弋神とて渡せ給ふ由己上二百二十小注せるガ

△白抄播磨郡名美
 囊林奈之有瀬小

如く若て其椽投神社ハ社記大碓皇子也と云るハ
 其從祀ありて若くハ混へたる故椽投ハ少之君
 少く少彦名命とてハ坐ざる其但馬國の佐蒙ハ必
 佐那岐と訓べくして必椽投佐蒙ハ同名ある小此二
 柱神共小此國小幸坐るを大己貴命の御社のハ有べ
 才謂無ればあり又當國小鳳來寺と云山有て薬師と
 云ふ胡神を祀ひても決く此二柱神の神地を掠たり
 し者あり可き事論を待てして明らるあり又二葉松
 と云ふ参河国志小登柳川元來阿登川あり大己貴命
 諸國を巡給ふ時の御足跡今諸國小在り御足跡地池鯉

宮の御事ある代富知神社今大宮の攝社御在一坐
を富士の地主神ありと申せ此心是あり此御嶽を作
しし二柱神の御在一坐あり可然るハ風土記ハ
富士郡榎原豐麻神社二坐所祭大己貴命其少考名命
也二所見たハ傳廿三百十下ハ注ガ如ク此二柱
神共小田野を開クセ御在一坐て麻草を播殖させ給
へり其御功ハ依て豐麻神也其方ハ取て稊申せ
り所思し其業をも專此地ハ始させ給へるハ
據ルるアルハ其御嶽を作らせ御在一坐程の故事
と見て心行く状ありけり斯ハ方葉三二十十望不盡

山歌ハ天地之分時從神左備年高貴寸駿河有布士能
高嶺字略下ハ詠ハ唯上古より有來ハ事を云ハ不
然のハ抱ハ可ハ非ズ又詠不盡山歌ハ略ハ日本之
山跡國乃鎮十方座神可聞寶十方成有山可聞略下ハ詠
るハ此二柱神實ハ此山を造ハ御在一坐て此大八
洲國の鎮ハ齋ハ治ハめハせ給へる事著明くるむ有け
る諸此山を不盡富士あり書く事ありハ右の富
知神社を東鑑ハ文治二年七月廿九日駿河國富士領
上政所福知社奉寄神田略下ハ所見たれば本ハ富知ハ
かて言意ハ秀地ハあり可ハ若て其富ハ槍穂縮穂あり

つ穂よりて物の上高く尖出たる謂して即右歌の上句
小奈麻奈美乃甲斐国打縁流駘河能国典己智其智乃
国之三中従出之有る有る是なり知地地を古事傳五
+ 湓土煮傳沙土煮傳の下に注るが如くして即此
山の事を云ふなり彼高砂と云は高く砂石の積れり謂
ふて即山を云ふ合せ思ふ可し己ハ大三輪神三社鎮
座次第ハ初伊弉諾伊弉冉二神共乃夫婦生大八洲国
及處ニ小島而地維推如水母浮漂之時大己貴命典少彦
名命戮力一心殖生蘆葦固造国地略之所見たり如
此く水母如しける国の鎮小斯る寶の山をも置

給ふ可き御事ふらし
山祇命也深待彦天皇二年下卯卯六月之旬祭馬
養部祝部嘗祭之鳥一宮有て次ハ浅宇麻社所祭
木花開耶姫也云しと所見たり此ハ二神也葉字類
謂ゆる富知神社の御事なりとも思ゆ此ハ二神也
物ハ浅間大神坐富士山或曰富士明神之見也
若くハ坐御父子二神共ハ此大宮あり浅間神社ハ
在ハ申心可く非ぬ考ふ可し備右の深松彦天皇
孝昭天皇の御事ハ庚申歳六月涌出たり是ハ縁起
孝安天皇九年十二月庚申歳六月涌出たり是ハ縁起
説あり又竹生島條ハ傳言孝聖天皇代紀首書ハ
水始港駿州富士山忽出焉と書し皇代紀首書ハ
靈天皇五年近江湖水始出焉と書し皇代紀首書ハ
年後れたり下学集天地門ハ孝聖天皇の時一夜ハ
涌出たり下学集天地門ハ孝聖天皇の時一夜ハ
三年甲辰三月十五日一夜の間ハ孝聖天皇の時一夜ハ
と云ハ此甲辰ハ三十四年ハ當り可し孝法印の覽

○日本書紀傳二十九

○百六十九

富士記小往昔壬子年とクヤ出現の由と云く之富
 此壬子ハ同天皇四十二年ハ當れり小ヤ右の如く富
 士山出現の説も様々有右ハ出せり中ハ其古
 ハ孝安天皇九年庚申年然ハ其不ニ神古
 祀始ル此ハ孝昭天皇二年ハ其百六十四年
 以前の事也此ハ出現の説異ハ可キ事右ハ引
 葉歌ハ天地之分時後ト有以テ神代ヨリ山引
 事論ヲ待ズ以テ明ク有又扶桑國ク扶桑と富
 士ト其音近キを以テ説成セリ有イ豆風土記ハ
 殊云云云足ガ強事ハ有イ豆風土記ハ
 稽温泉玄古天孫未降也大己貴尊與少彥名我秋津洲
 憚民大折始製禁藥湯泉之術伊津神湯又其敷而箱根
 之元湯是也之所見たる此一事を以てし伊豆相摸等
 を巡作しし御在し坐ける御事迹ハ著明キ者なり
 又神名式ハ甲斐国山梨郡金櫻神社即金峯山とも

合何の御世ふる山を中
 峯を功の水を下りし
 村皇田細と云はれり
 其事を掌りし人
 移て此殿明神と祀
 りて社今巨摩郡
 在り其地を流
 流い今の富山
 可しと云ふ上の件
 如三柱神の宮土出
 作給へし御事
 下りし御事
 即大井殿神社和名抄巨
 摩郡大井郷有り谷勝
 小本社南方有天神祠當
 社跡並前所地主神
 皇神少彥名命也云
 其共蹴取明神の由
 有て聞ゆ備傳三
 云べし

御嶽山神号を藏王権現と申せり云ふ神号を藏王権現と申せり社傳ハ所祭少彥名命大己貴命素
 彥鳴尊三神小御在し坐て大和国金峯山山梨郡の勸請
 所あり本社より七里許頂上ハ大なる巖神小御在し
 坐て遠く此を望めバ恰も衣冠を著たる貴人の如く
 して其奇異ある神像ありと云ふハ例の岩三御在
 坐して決めて神代の遺跡と伺ハれ侍り大同類聚
 方ハ奈川ハ藥甲斐国山梨縣主方ハ云々其元波火
 彥名命御傳斗云々有る式社考も傍證と成ぬ可キ事あり
 又武藏国多磨郡ハ御嶽山と云有式社考神名式ハ謂
 ゆ大麻止乃豆乃天神社是あり少彥名命を祀る由

小云の又風土記にも此神社の御事を所祭大己貴命也安閑天皇乙卯始奠官社花時以花祭之新稻之時以新稻祭之と有れども大麻止乃豆天神と申すは同式小大和國十市郡天香山坐櫛真命神社を下元名大麻等乃知神と有て同神小渡とせ給へれども大己貴命おても少彦名命おても御在し坐ざるを此神社も共お其御嶽山小御在し坐らる己く延長の風土記に小混り木たりし者^{多由事下石の細書ハニ}可し其金峯山御嶽社大宮司家傳小祭神少彦名命大己貴命安閑天皇^{或云神三武天皇}社会殿也號藏王權現聖武天皇御世日本靈地ハ三芳

野社を丹波大和武藏の三国ニ祀ひ給ふ神ありて云の其御世ハ至りて始て令祀給へるありども此も丹波あり佐々伎山も共武外ありの備神代ハ平坦あり地の開くる事ハ甚後ありけり此^社ニ神の據せ給へるハ何れも斯る高山ありしめて實小神代の遺跡ありて其令祭給へるハ後ありしハこゝろ^{備又武}内ハ天神社と申す三所御在し坐けり多天神社武社考ハ布田村ハ布田天神有て天満宮の額を掲ぐ所祭少彦名命也^注又阿豆佐味天神社大同類聚方小阿川差民薬元波大己貴命乃神方也又阿豆佐見薬阿倍朝臣廣津麻呂乃方元波大己貴命云と有る此天神の稱ハ少彦名命ハ在り事ハ此^社ハ二柱神共ハ並び御在し坐らる可し又穴澤天神社風土記^{少彦名命也と有る}何れも神代の昔思ぬく御社

△傳三卷百四十四
小注が如く

合止終瓦土記長柄郡
谷部御足國神社主
同五十三束所奉心
行神國精神等也
い有由社の心

下百八十三下注せり

共小少山又惣國風土記在厚郡赤坂莊小六天神或
古呂岐古呂岐所祭大己貴與少彦名韓神也号小六者以
有由申有る事之故也神名式近江國蒲生郡沙之貴
神社和名抄郷名小篠筒之有る此地あり沙之貴大神
諸國鎮座記小伊勢國御先之三神中大己貴命左少彦
名命右久延彦命之有る彼國小式外御先社之て沙之
貴神社の御在り坐る祭神の説ありて實小如此も
有ぬ可事あり備頭注ふ仁徳天皇一説少彦名命
と有て何れ小して一神の説あり又其鎮座記通證好古由
謂第一少彦名命第二大鷲尊第三狹城山君是孝
元天皇皇子大彦命也第四敦實親王是宇多天皇第七

皇子也之有り今按ふ此社号の沙之貴少彦名命
小起此の地名あり此主神少て渡りせ給ふ事申す
も更あり第二大鷲尊鷲此小由無若くハ大己貴命を祀れ
るあり可き大彦命狹城山君の祖あり敦實親王
ハ佐々木氏の祖あり此地其小出れる氏族あり此ハ
從祀アヒドリ之成る事其謂此有り但大彦命を祀れるより久
延彦命の名ハ區隱レて却りて伊勢あり別社ハ正一
く傳りぬるふころハ有け神名表美濃國惠奈郡惠奈神社
當國式社考在惠奈山上去落合驛南三里許今稱惠
奈山權現之有る此權現ハ謂ゆる藏王ハ御在り坐

信濃國右往昔建御
 方神首之所任之地也
 治天下御神大己貴命
 又以其名命建御名
 方命巡行於國故別
 阿羅野語此國若木
 葉草垣等也故名
 名爲阿羅野今信濃有
 赤之記也又有伊達
 御名方神の巡坐
 此二神より別の國度
 へと遷りたり共
 傳世卷若下下位
 阿羅野の傳し聞え
 二記の阿羅野云八咫
 有る是なり又七に里御
 有る温泉水也
 〇然し大同類聚方小惠
 有る温泉水也
 命傳法也元者少名
 命神方也之所見た
 惠奈山に注せる温泉
 國史事社不出たり
 阿羅野の傳し聞え
 八咫の傳し聞え
 八咫の傳し聞え

ざり其隣りて信濃國小伊那郡之云有内其内
 山真龍説小伊那郡ハ湯之郡伊豫國ハ出湯國略惠奈郡
 ハ湯之郡の轉又天竺天竺十四年御記小伊那郡使名後小建クサレ一金行宮ニ湯ノ末問湯湯
 小據れり地名ありを思ふ可又天竺天竺十四年御記小伊那郡使名後小建クサレ一金行宮ニ湯ノ末問湯湯同國木曾御嶽之云有
 の所祭大己貴命少名命の御在坐て此山の人卷
 を多く産するを二柱神蒼生を救給ふ料小殖也給
 へる由の土俗傳たり或書八葉新論又信濃風土記又上野
 國神名帳小群馬西郡從三位大奈知明神小奈知明神
 と有る決く此二柱神小御在坐る由下而七十
 大虫神小虫神の所注せるを以思合了可し又同郡

〇然し大同類聚方小惠
 有る温泉水也
 命傳法也元者少名
 命神方也之所見た
 惠奈山に注せる温泉
 國史事社不出たり
 阿羅野の傳し聞え
 八咫の傳し聞え
 八咫の傳し聞え

從四位下石神明神從五位上大石明神正五位上小石
 明神と見え又正五位上温泉明神と有る決く此二
 柱神小係小車共あり又神名式小下野國那須郡温
 泉神社式社考在湯本村所祭大己貴少名命云
 の又式小陸奥國新田郡新田嶺神社名神觀跡聞老志
 小土人呼云藏王岳以山上有藏王權現神祠也略吉川
 氏官社縁起日所祭白鳥明神乃日本武尊也之注一行
 囊抄新田山藏王權現宮有り同地藏堂有り白石邊
 邊あり新田宮新田明神社新田驛中在當社の使
 者ハ白鳥あり之云ハ本よりの神跡あり小後日

合鹽湯神社御岳山之
 云々御存一坐を主人
 野堂をより上を温泉
 の地ありと云々大己貴
 命考谷二神山御在
 坐ありや傳世四二
 九にせよ如く撰津
 國有馬郡有間神社
 此二神を祀れり
 此鹽湯有て其有
 馬の稱謂ゆゑ伊
 國能郡の有馬村記
 此を坐し思合す可し

本武尊を合せ祀りし者ありけり此小地藏堂を云小
 ても大己貴命の御事も有げらるるを其傳を失へりけ
 る事知へし石見國安津郡有間神社有間神別神尋如可し同玉造郡温泉神社頭注小大己貴命温泉
 石神社頭注小少彦名命之云り又磐城郡温泉神社此
 三社の御事小己の傳二十四九十の云り又小田郡黃
 金山神社觀跡聞老志の舊説曰開闢之始三輪明神以
 四橋梁之鍊黃金造此巨島と有る縁起小大己貴命
 久延考命之云り少彦名命の御名を脱せるありけり
 傳十五三百八十九下小己の注せり又神名式小出羽國平
 鹿郡波宇志別神社今八木澤村信保信呂羽山之云り坐を

大和國金峯山より移祀り所にして少彦名命之云ふ
 社説あり又田川郡小金峯山之云も有て傳ふる所右
 小同トきハ古二柱神大和國より此國に移り御在
 坐て大己其國を開くせ給へる神跡あるを以て
 可し己の傳十二卷百十下小引る本國最上郡小傳ハ
 陸奥小藤之云男有と聞く其こる吾妹之足記可きあり
 給ふて来給ひし分置賜村山の邊小川有る歩渡り居
 里人の見て穴けり耻給へる其脛白く水に移れるを
 或時二人下江之云山内あて終小其藤之夫婦と成り
 山相重ゆて下流事能ハ此大溜有と雖も群
 唯最上の平地長泥澤其地今最上郡之云り是あり
 大抵ハ平地之成ぬ其地今最上郡之云り是あり

△又出雲風土記高根郡
不官知社中不出野社有
る今福名村出大明神所
答大己貴命と或言ふ
云々由有内侍

△足羽郡足羽神社傳
廿六下注に如く所
須波神也渡りて給へる
此大己貴神の御座
り坐す也之由有
不知谷抄御名少谷
を半多と有る多々
を傳へるも半多と
云て少名名神の由有
地名也也有むりし
又

△加賀國小大己貴神
以下の社々多在り事
傳三十九に如く如
神名記に謂ふも右郡
御村并神社を凡上記
木村并社田三十八三
七田大寶三年生廣八
月如所祭少名名神
也有神家九戸等之
有を以て二柱神共御
事跡有る事を思ふ可
き者なり
△此能登國の在り大己
貴神の御座りて故事
其傳三十九卷八十一
言一又少名名神御
村に在りて其ハ
同是八百廿七下
書一奉りし

命の渡りて給ひ又和漢三才圖會續に越前國白山社の
別社に越前知大己貴命と有、越國の那智と云ふ同
しきを以て大虫山虫大奈知小奈知共此二柱神の
渡りて給ひ御事を思ふ可くあり。此の右の式内あり
てハ別あり分、越前國足羽郡安波賀村春日大明神境
内安波賀神社祭神大虫神社考火、出見尊小虫神社
豊玉姬命傳云日下部苗裔朝倉氏勸請と云ふ、甚く
異あり傳あり大虫神小虫神の本説を失ひつる後人
の定のころハ有、又當郡佐々早志神社四座之有少名名神の坐り又神名式に坂井郡比古奈神社
頭注に少名名命と云ふ然れど同郡國神社ハ大己

貴命の御座り坐べりし事上四下注せしを見て
知べきなり又能登國羽咋郡大穴持神像神社能登國
能登郡宍那彦像石神社御座り坐り此像石ハ神代小
己命等の御像を御身自作置御座り坐りしあり可
三代實錄貞觀二年六月九日皇子能登國大穴持神宍那彦神並列於宮社之有り
くころ、又越中國射水郡射水神社名神大二十二社注式
奥入小今二上宮と云ふ二上ハ兩神あり、小ヤ万葉十
七四下二上山賦ハ伊美郡河泊伊由伎米具禮流多麻
久之氣布多我美山者、略中可年加良夜曾許婆多數刀伎
夜麻可良夜見我保之加良武須賣加未能須蕪未乃夜
麻能之夫多尔能佐吉乃安里蕪尔、略下有も思めぐりし

一説記小竇... 月甲辰... 郡二上... 位下... 神... 和七年... 水... 齋... 同... 神... 見... 外... 神... 又...

き心ちす同郡気多神社... 大己貴命... 万葉十七... 古思能奈可久奴知許登其等夜麻波之母之自尔安禮... 登毛加波... 伎伊麻須尔此可波能曾能多知夜麻尔... 山と聞ゆれが二上山を此二柱神の敷坐す山と見て... ちも強説ふ有へくずるむ越後佐渡兩國より此

此二柱神... 方小奴奈加薬越後国頸城郡奴奈加波神方也元者少... 亦名神削大己貴神傳方也又小三輪薬越後国頸城郡... 居多神社傳方元者少亦名神削大己貴神傳方也祝子... 大神保公等家方也之所見たり此一二事を以ても想... 了ふ思及す可き者なり... 又志乃久良薬之云有て越後国大神社傳方元波大己... 後命傳方也大領大神臣玉手等之家方又佐美豆薬越... 等之家傳云云又佐良薬越後国古志郡同元位大宅臣... 等之家傳云云又佐良薬越後国古志郡同元位大宅臣

久乃葉社
宮中夜日子神社
方也元波
方系

△播磨國物部
宇東也後天國
大神特降
如張場也
國多起
保郎福種
也火子望見
形亦似
小所以
時日安道
又神前
余相
半次
相爭
小比古
屎也時
石于成
備種

田乃神社
藥越國三
與和比藥
也之有
の限
曉了可
日因坐天
考命了所
角鹿荷飯
即是皇
傳三
由下百
記の二宮
女休赤裝

而來臨即少考名命也
御魂神社
了みて其來臨ころい
代の所以の據
播磨風土記の調ゆる
小伊特諾尊伊特冊尊
有け此八十橋云ふ一説
を合せて造給ふ云ふ
下橋を休して平坦
國作の御事あり可し又

命の方あり又阿比田藥越後国久比城阿比田乃神社
乃造乃家方其原波久考名命云々又惠奈山藥越国三
志麻雄之家傳方也元考考名命神方也又興和比藥
越後国魚沼郡坂本神社傳方考考名命正方也之有
此四少考考名命の方あり他国も殊も越後も限り
多く傳ひし時神世の遺蹟必有つ事を曉り可く
あむ有山陽道ふ神名式小播磨国賀古郡日岡坐天
伊佐比古神社御在坐る峯相記見えれ考考命所
見たり此神功皇后十三年御紀云謂ゆる角鹿荷飯
大神を應神天皇前紀御去来紗別神と出たり即是皇
后大神歌小謂ゆる少考御神の御事あり由下八
六十の注る如く又多可郡流田神社峯相記二宮
一丁の注る如く

而来临即少考名命也略と有は完栗郡伊和坐大石持
御魂神社名神大を一宮と申す大並べて二宮と申せ
る大み其来临ころ天平勝宝ふ大有けめ必神
代の所以の據せ給へりむ御事申すも更ふり又
播磨風土記の謂ゆる八十橋の事を續風土記云物
小伊弉諾尊伊弉册尊八十二神共天降給ふ迹の
有ければ八十橋と云ふ一説少考名命大己貴命とカ
を合せて造給ふと云ふ有る此一説は本よりの八
十橋を休して平坦の成し給へるを云ふと謂ゆる
國作の御事あり可し又鞍懸石神部の沖ふ在り大己

而来临即少考名命也略と有は完栗郡伊和坐大石持
御魂神社名神大を一宮と申す大並べて二宮と申せ
る大み其来临ころ天平勝宝ふ大有けめ必神
代の所以の據せ給へりむ御事申すも更ふり又
播磨風土記の謂ゆる八十橋の事を續風土記云物
小伊弉諾尊伊弉册尊八十二神共天降給ふ迹の
有ければ八十橋と云ふ一説少考名命大己貴命とカ
を合せて造給ふと云ふ有る此一説は本よりの八
十橋を休して平坦の成し給へるを云ふと謂ゆる
國作の御事あり可し又鞍懸石神部の沖ふ在り大己

貴命御鎮石之云事も有るが何れの上古の神迹あり
武務王國系後古事記を傳へた大明神の所傳三十三卷に注せり
可き事あり又日本風土記之云物の大隅宮古東郡津山
東五町小在り祭神大己貴命和殿此神古ハ別宮
あり今ハ少宮谷之云所傳有り見内傳神名式ハ備
前國御野郡天神社國神社坐ハ必此二柱神あり大同
類聚方ハ和氣藥又神根藥備前國和氣郡領和氣臣飯
成等之所傳元者少彦名神方也之有り又同書ハ三坂
藥備後國神石郡美左賀云ハ少彦名命方之有ハ和名
抄郷名ハ神石郡三坂之有ハ此地ハ傳ハたる神方
あり神名式あり周防國佐婆郡御坂神社在出雲神社

考之云物ハ祭神大國主命之有ハ若クハ由有る事ハ
其傳三十三卷
ても有るハ凡ハ山陽道の國ハ出雲の地ハ美
ゆけれハ此二柱神の故事多クハ相隣ハ國ハ
えざりけり此二柱神の故事多クハ相隣ハ國ハ
方ハ赤間ハ冷藥大己貴命云ハ之云事有る此ハ長門
國豐浦郡ハ之謂ハ赤間關ハ傳ハ此方あり
南海道の國ハ在り此二柱神の故事ハ紀伊國名
草郡加太神社神名式ハ見ゆ此ハ傳七十六ハ注せる
ガ如ク友島の古名淡島ハ御在リ坐ける也後ハ加太
村ハ移奉りしハ加太神社之申し今ハ加太淡島社
之申せりあり社傳ハ少彦名命大己貴命神功皇后在
合せて三座之為之ハ淡島ハ元ハ少彦名命あり

△大内親王方々
乃崇云元辰考
名命方々南云事
有合せて

渡りせ給ふ所由て神代より御事ありけれ心相
殿の大己貴命也其當昔より鎮給ふふゆ柄此御事
下二石下三石云べし又石五丁石七十下七十下七十注三加熊野
三所の那智其地主て坐す大己貴命の御名あり
沙二貴大神諸國鎮座記熊野本宮十二所之中第九
大己貴命第十二少彦名命と有る以て神代所由有
る地ある事を知べし又傳廿四二下十引伊豫風
土記湯郡大穴持命見悔耻而宿奈畏古那命欲活而
大分速見湯自下植持度來以宿奈畏古奈命而漬浴者
楚尚有治起居然詠曰真楚寢或踐健跡處今在湯中石

△此ハ伊特深等の
方々大神氏傳へて
此遺事者あけり
本ハ傳三卷に在
下云ハハハハ

上略と有る此一丁及びして其他を思ふ可き者
即神名式湯温泉郡湯神社と有る是あり日本風土
記云物祭神二座大己貴命少彦名命と所見たり
又同國石植山と云有り例の藏王權現と云るを少
彦名命大己貴命あり由或書ふ云り
社坐其別々備此四國の中あり僅小伊豫國の
右の如く傳り此を淡路國の伊豫郡石土神
此類加太神社の御事也此も伊豫見心あり大
同類聚方淡路葉云津名者伊特深等之宮也
大己貴命之裔大神賀古在淡路國而造此社也
命方々有ハ式内何の神社也當り傳方々少彦名
美馬郡傳大國主神大國敷神社二座と有る是ハ
十一丁注るが如く大己貴命の荒魂と云ふは
此ハ右の奇魂神社の少彦名命ハ別ハ式外に御在

坐べくこり又同方の鏡葉讚岐国香川葉田村社傳方又云少彦彥之有る也も各其国に就て此二柱神の互に故事西海道の在り事蹟の物を見えた
了るハ万葉六三下天平二年庚午冬十一月大伴坂上
郎女發帥家上道超流前国宗形郡名兒山之時作歌一
首大河少彦名能神社者名著始難目名耳字名兒山跡
負而吾戀之千重之一重蒙奈具佐末七国之有り其谷
兒山を二柱神の傳也し給へる傳の有る以りあり疏
後国神名帳の因り伊佐良神又天彦奈古倉神又天
此當子社又石神社又立石神又和伊勢神又
御古神伊佐良神有り少彦名命あり可し大神
神国玉神国津神天下地主神と有り大己貴命也渡り

せ給へるを思合す可し又大同類聚方の大國藥私
肥前肥後と有り私云肥葦北郡姫島直等家方而允恭
御宇奏之元是少彦名神方也之所見たり上の引り伊
豫風土記を見れば豊後國の大分郡遠見郡の元湯を
海底の引り伊豫を致し給へるあり二柱神の鎮西
小御在り坐り御事の此の若り明りけり小日向
風土記の云ふ云ふ事有り又大隅風土記の大隅國串
下郷昔者造國神勤使者遠此村今見消息使者報道有
髮梳神可謂髮梳村因曰久四良郷髮梳者隼人俗語久
之所見たり此造國神ハも決く此二柱神を申せり

予可くし事上四十五注了考合す可し神名式
以同國贈啖郡大穴持神社續紀小室島九年十二月甲
申略神護中大隅國海中有島其名曰大名持命至此為
官社之有舊山此神の御社立せ御在し坐けるを
神護中中島を造るせ御在し坐ける異驗を就て此
至りて官の祭をせ給ふ御事とい成れるがめり
和名抄郷名小同郡志摩國用之有此新島を云ふ可
し土人説今桑原郡國分郷在り所祭大己貴命少
彥名命大歲神三座多り此地神造島之有今神
島之も宮瀬之も云之云り又神名式對馬島上縣郡

外八物主神の御心
に因神を合せ奉り

胡祿神社と申す有或説小依今試小云時武藏風土記赤
坂莊郡小六天神或古所祭大己貴命與各國韓神
也号小六以古呂故一本固名之故也之所見たれば此
と同トさも知べし又胡祿御子神社有其大己
在し坐へし備韓神の御事傳廿六卷八十九下云
も大己貴命此二柱神の御事韓神御事給へ此の文
此二神の外別少韓神命給へ此の文
韓地不渡御在し坐し時御進給へ此の文
也給へ思たり備我内及共近傍在二柱神の神
迹之所思し神名式小謂ゆる山城國綴喜郡天神
社地祇神社或書少彥名命大己貴命ありと云り

又撰津国武庫郡廣田神社 名神大月次 相嘗新嘗 此ハ謂ゆる天
照太神ノ荒魂ニ渡ルセ給小御事神功皇后御紀ニ所
見たりカ如ク然ル小民部省圖帳ニ廣田大神神靈少
考名命蛭見以右兩神為二座相殿大己貴命園韓神也
ニ所見たルハ必所由有ベキ事傳廿六 石ニ注ルカ
如ク又式ニ有馬郡有間神社 傳九十九引ル風
土記ニ有馬神社圭田八十三束三七田所祭大己貴并
少考名神也ニ見え又湯泉神社 大月次 新嘗 の御事ハ傳廿
四 二十 注ルセガ如ク大三輪 大物主命 湯泉 大己貴命 廣告 少考
命 三所 御在ニ坐ビ即園 大物主命 韓 大己貴命 の御事ハ

渡ルセ御在ニ坐テ神代ノ御鎮座有ル事著明ク
あり有ける上 五十五 租云々如ク神名式ハ伊賀
國所拜郡敵國神社 大 少考名命ニ御在ニ坐テ即天
上ノ粟田を降ル給ヘリ地 此並ニ大己貴命の御在
坐ルヤ何處ゾ求ルニ同郡陽夫多神社を伊水溫
故ニ 數田社ニ座 素戔嗚尊大己貴命ニ云ヒ穴石 一本 神社ハ兵主
神ニ渡ルセ給ヘルハ大山由有リ又伊勢國壹志郡射
山神社 神原 溫泉由来記ニ湯大明神ハ神名帳ニ壹志
郡射山神社ニ申奉ル是ルハ今鑰取大明神ニ稱して
郷の總社ト崇奉ル本名射山神社或ハ湯山神社一

名氏山御前祭神二座大己貴命少彥名命云々貝取山
一名射山云々貝の形為る石の多く有を以て
貝取山云々右の湯山の明神の御山射山不在
一時此温泉其山の北麓に在り今其處を湯嵩云
ふ御社を今の地へ遷奉此に湯も亦御社の邊に湧ぬ
實小神の御湯ある事明くけし八雲御抄も七栗の
出湯云々枕草子も湯り七栗の湯云々七栗とい郷
の名あり榊原と云ふ云々昔此處あり神宮へ眞神
を献て大中臣の氏人あども住給ひ愛たま例有を以
て言壽て榊原とのし唱へし故一郷の名を成て何時

但依廣風記小縣郡
七久里郷有温泉云々
有北此七栗湯云々
事後人の附居不
しむ知べし

と無く七栗の御とい外のやうに成けり云々略下有
を以ても神代よりの神湯ある事著明き者ありり
又惣国風土記の同国員辨郡井上神社圭田十七末三
畝三字田孝謙天皇四年所祭園韓神々彦名神也土地
有疫疾則來此社神前掛長繩垂白木綿祈其疾疫其効
驗不迴頭也之所見たり此云外云々古くは有
れり神祠と聞ゆ備上六百十五丁注せるが如く此
御在り坐ける御事を云々但馬國の向ひ
但馬國朝來郡有伊勢國朝來郡有言相近き
を神名武朝來郡朝來郡石部社二座有の又其養父
郡井上神社二座有の此部の社二座有の如く外に井上
神社御在り坐す事其時の由ある如く縁れりみや

備神武天皇御紀の復大己貴大神目之曰玉階内國に
 有る古語を載させ給へるを以思ふよ有か中より大
 和國の二柱神の經營給ひけりし然るに出雲神
 賀詞より其大神の國避く時の御言ふも乃大穴持命
 乃申給久皇御孫命乃静坐年大倭國申天と有が如く
 往て天神御子の大宮柱太敷き御在り坐む為み實小
 玉階内國を美好しく作定めさせ給へる御事とあり
 所見たりける然るに傳六其傳三十一下注命可し上六十九下九引る其國の
 風土記に山趾國者往昔山岳多而平地少所治天下大
 穴持命與女彦岩命巡行此國鑿山開谷為平夷故云山

跡也略而後從平城舊都至金峯山下浩平陸而其
 間唯有畝傍山耳梨山天香久山而已故是謂大和三山
 也略下有以味あり其國中僅に三山を残して
 悉に平夷造らせ給ひける者ありけり其天香山
 傳十九二百五十四下五廿一五下廿二百六十注るが
 如く彼天磐戸開の時小磐戸と共小己く落下りて有
 けるを此に甚止事無き山あり有ければ此を始と為
 て余の二山も共小國中に残り留めさせ給へる中小
 も其地を平夷成し給ふと為て其も唯形を存し
 給ふのいふて多く削去給へるもや其い己小傳

二十六下 山も注せし宝鏡開始章第一一書採天香山之金と云事を古事記の取天金山之鐵と記す^{香山}金山といふ事此の奇しき事い謂ゆる吉野郡なる金峯と云名大由有り又葛上郡の高天山と云名有共小天香山^{一名天}の國中一聳立るを鑿取て此を別處に安置させ然へる小ころと考ふるれあり万葉七^{三十一}の大穴道少御神作妹勢能山見吉と有も此邊系州し故事を詠るあれが此二柱神の然り山を作せ御在坐御事異しむ不足すてあむ有ける故神名式小大和国吉野郡金峯神社^{各神大月次}相嘗新嘗と有

是あり祭神諸社志和尔雅等少彦名命と有り同郡大名持御魂神社^{各神大月次}相嘗新嘗と御在坐せし得去^カ所由有御事ある上^{百七}引る甲斐国金峯山社傳少彦名命大己貴命素戔嗚尊と云武藏国金峯山社説少彦名命大己貴命安閑天皇^{或云}神武天皇傳たりが如くして何れも為て此二柱神の共並び御在坐小違ひ無れは決めて所縁有て灼然き御事あり^{又此小就て考得たりける神名}命神社大月次新嘗と有^{武小大和国十市郡天香山坐櫛真}有^此謂ゆる^下庭神と坐^下久慈真智命^乃知神と給^事更^論無^由傳^廿卷^而五^{十八}下^注せ^ら分^如然^る武藏国多磨郡大森止乃豆乃天神社

△此御事傳三十七
八十一
十一

○日本書紀傳二十九
○百八十七



右の天香山坐禪真命神社と同神ありて渡り給ふ御
 事申すも更なる武蔵國式社考御岳山の御事
 神也少考谷命を記す大即右乃智天神主田六十七東
 六毛田所祭大己貴命也安閑天皇乙卯年始稟官社云
 り事相造此神社を大己貴命と申し少考名命を申せ
 此二柱神共乃由縁有り御事其大和國の天香山
 己此大麻止乃豆乃天神野社より勧請れし者あり
 て此堂山三神ハ吉野社より勧請れし者あり別
 然れども此二柱神共乃天香山所縁有ハ全此國土
 經營の御時此事の縁あり由右件ハ二柱神の國巡り
 經營の御石に坐けり故事の傳り限を奉て徴し奉
 りるる何れ先何れ後と云ふ次第ある
 ハ更思測り得べき非れども其少考名命の浮到り

明治七年七月廿五日校合了菅政友

